

**ビワヒガイ** (コイ科)

**学名** : *Sarcocheilichthys variegatus microoculus*

**別名** : ヒガイ

**大きさ** : 全長 20 cm

**特徴** : ごく短い口ひげが 1 対ある。背びれに 1 本の黒色帯があり、体色は灰色味の強い銀色で、暗色の鱗が不規則に散在して雲状斑を形成する。

**国内の分布** : 本来は琵琶湖の固有亜種。現在は東北地方や関東地方、北陸地方、長野県（諏訪湖）、高知県などに分布している。

**県内での分布** : 霞ヶ浦水系

**県内での生態** : 一般的に食性は雑食性で、底生動物や付着藻類などを食べる。産卵場所は二枚貝の外套膜。雌が産卵管を貝の入水管に差し込んで産卵する。産卵期は 4～7 月。

**備考** : 1918 年に 250 個体の琵琶湖産ビワヒガイが霞ヶ浦へ放流され、1935 年頃には約 60 トンの漁獲があがるようになったが、1980 年代には 1～2 トンが漁獲されるまでに減少した。近年はほとんど漁獲されていない。なお、1948 年に 200 個体、1958 年に 10,000 個体の規模での追加放流が行われた記録がある。

**主な文献** :

加瀬林成夫・浜田篤信 (1977) 霞ヶ浦北浦産魚類目録. 茨城内水試調査研究報告, 14: 59-64.

霞ヶ浦情報センター研究委員会編 (1994) 霞ヶ浦の魚たち. 霞ヶ浦情報センター, 阿見町, 茨城. 167 pp.

野内孝則・荒山和則・富永 敦 (2008) 霞ヶ浦北浦で確認された外来魚の導入経緯. 茨城内水試調査研究報告, 41: 47-54.